



Title	異尾類幼生の多様性：琉球列島の浅海域に生息するヤドカリ類の初期生活史
Author(s)	藤田, 喜久
Citation	琉球大学21世紀プログラム「サンゴ礁島嶼系の生物多様性の総合解析」平成17年度成果発表会
Issue Date	2006-03-06
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/818
Rights	

異尾類幼生の多様性： 琉球列島の浅海域に生息する ヤドカリ類の初期生活史

藤田喜久

琉球大学大学教育センター・非常勤講師

エビ類・カニ類を含む十脚目の甲殻類(十脚甲殻類)は、種数も多く、陸域から深海までの様々な環境に生息しており、琉球列島の高い種多様性を支える重要な生物群の一つである。この十脚甲殻類の中に、ヤドカリ類、コシオリエビ類、カニダマシ類など、外見的に極めて多様な形態を持つ動物群から構成される「異尾類(異尾下目)」と呼ばれる一群がある。異尾類は、分類学的にはエビ類(コエビ下目)とカニ類(短尾下目)の中間的な位置に置かれていて、系統的に興味深いグループである。この異尾類の形態的多様性は、幼生に関しても同様であり、例えばヤドカリ類やコシオリエビ類のように、いわゆる "エビ類型" の幼生を持つものや、スナホリガニ類やムギワラエビ類などのように "カニ類型" を呈するなど様々である。演者は、幼生形態や初期生活史情報の比較から異尾類の系統類縁関係を推察することを最終的な目標として研究を進めており、これまでにサンゴ礁域に生息するコシオリエビ類、カニダマシ類、ムギワラエビ類、スナホリガニ類の記載研究を行ってきた。

ヤドカリ類は、主に巻貝の空殻に体の腹部を隠して生活している。分類学的には、ホンヤドカリ上科に属し、一見カニ類様を呈するタラバガニ類を含めると、世界に7科128属約1500種が知られる。ヤドカリ類(タラバガニ類を除く)の幼生記載研究は、国内外において決して少なくなく、現在までに5科29属約133種もの幼生形態が知られている。しかし、その研究の多くは、1) プランクトン採取標本を記載したもので種名が不確実である、2) 室内飼育による記載であっても1970年代までに行われたものが多く、現在の幼生記載水準から見ると記載に不十分な箇所が多々ある、などの問題があり、系統類縁関係を考察するための詳細な形態比較を行うことが困難な状況にある。さらに、知見の多くは、大西洋種および太平洋東岸に生息する種に偏っており、インド-西太平洋域、特にサンゴ礁域に生息する種についての報告は著しく制限される。

以上の状況を踏まえ、本研究では、サンゴ礁浅海域に生息するヤドカリ類の初期生活史の解明を目的とした。現在までに、2科(ホンヤドカリ科・ヤドカリ科)7属(*Calcinus*, *Paguristes*, *Dardanus*, *Porcellanopagurus*, *Pylopaguropsis*, *Pagurixus*, *Pagurus*)12種のヤドカリ類幼生を飼育した。これらのうち、*Calcinus* の3種、*Pylopaguropsis* の3種、*Paguristes* の1種の計7種は、孵化幼生からメガロパ幼生までの完全飼育に成功した。特に、*Pylopaguropsis* 属の室内における完全飼育は世界で初めての事例となる。また、*Porcellanopagurus* 属のチビカイガラカツギ *P. truncatifrons* は、第1ゾエア幼生のみ得ることができたが、抱卵雌からの孵化幼生の記録は今回が初めてとなる。